

I-1 : その他

開催日時 9月20日(木曜日) 13:50-15:20 401(4階)

私たちがオープンサイエンスを進めるためにすべきこと

イノベーション創出を目指し、内閣府や文部科学省がオープンサイエンスを強力的に推進している。しかし研究機関は具体的に何をすればよいのだろうか？本セッションは、オープンサイエンスにおいて研究機関が「すべきこと」として「研究公正」と「研究データ管理」への対応について考える。京都大学で最近起こった研究不正事案をあえて「研究データ管理のベストプラクティス」として取り上げながら、情報基盤、人材育成(国立情報学研究所)、研究データ管理計画(JST)の各担当者とURAがセッションの場で「すべきこと」を共有し今後のアクションにつなげる。■ プログラム ■①プロローグ「オープンサイエンスと研究公正の国内外動向」船守 美穂(国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター 准教授)、②研究不正の事例紹介 青木 学聡(京都大学情報環境機構 准教授/大学ICT協議会(AXIES)研究データマネジメント部会 主査)、③Funding Agencyから見た、研究公正とデータマネジメント 小賀坂 康志(科学技術振興機構 知識基盤情報部 部長)、④研究データ管理基盤の構築 込山 悠介(国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター 助教)、⑤研究データマネジメント教育の必要性 松野 渉(筑波大学附属図書館情報企画課デジタルライブラリ担当 係員)、総括とディスカッション。

オーガナイザー

青木 学聡 : 京都大学 情報環境機構 准教授



博士(工学)。ナノスケール加工・計測技術のシミュレーションを中心テーマに、2000年より各種研究プロジェクト研究員等として活動。2007年2月より工学研究科講師。教育研究活動と並行し、同附属情報センターにて研究科内の情報セキュリティ、情報インフラ整備、データ分析業務を担当。2016年3月より現職。大学全体にわたる研究者、研究プロジェクト支援のためのITCシステムの計画、設計、運用に携わる。

岡本 裕子 : 国立情報学研究所 研究戦略室
リサーチ・アドミニストレータ



2013年11月より 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 リサーチ・アドミニストレータ。

講演者



船守美穂: 国立情報学研究所 情報社会相関研究系／
オープンサイエンス基盤研究センター 准教授

国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センターにて、政策・連携を担当。東京大学で2005-2016年にインスティテューショナル・リサーチ(IR)を、大学の国際化、研究評価、教育改革などにおいて担当してきた経験を活かし、オープンサイエンスおよびその具体的な現れである「研究データ管理(RDM)」を大学に導入する方法の検討を、大学とともにしたいと考えている。専門分野: 高等教育政策、大学マネジメント、学術情報流通政策

小賀坂康志: 科学技術振興機構 知識基盤情報部 部長

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)知識基盤情報部長。2008年まで名古屋大学助教としてX線天文学研究に従事。JSTに入職後、科学技術振興調整費、A-STEP、再生医療、CREST、さががけ等のファンディング事業を経て、2015年10月より現職で情報事業を担当。またJSTのオープンサイエンス方針の策定・実施とりまとめを担当している。



込山 悠介: 国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系／
オープンサイエンス基盤研究センター 助教

国立情報学研究所コンテンツ科学研究系助教。博士(農学)。東京大学農学生命科学研究科にてバイオインフォマティクス分野でのデータベース、セマンティックウェブをテーマに研究。2014年4月より東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センターでスーパーコンピュータのシステム導入・運用および再生医療分野の研究データ共有システムの研究開発に従事。2016年4月より現職。2017年4月同オープンサイエンス基盤研究センターの発足後、研究データ管理サービスGakuNin RDMの研究開発と運営を担当。

松野 渉: 筑波大学 学術情報部情報企画課 係員



2014年より筑波大学附属図書館にて勤務。参考調査、学習支援、図書館システム業務などを担当。2016年に機関リポジトリ推進委員会に広報作業部会員として、2018年にオープンアクセスリポジトリ推進協会に研究データタスクフォース作業部会員として参加。